

## 「若者ととともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「長野県について、今思うこと。若者から見た住みたい地域は？」

日 時 平成27年2月12日（木） 午後6時から7時45分まで

場 所 長野市生涯学習センター第3学習室（長野市鶴賀問御所町）

### 目 次

1 開会	・・・	P 2
2 知事あいさつ	・・・	P 2
3 ワールド・カフェ	・・・	P 4
4 全体セッション	・・・	P 8
5 講評	・・・	P 11
6 閉会	・・・	P 15

進行役 大徳孝幸氏（じゃらんリサーチセンター 小布施町役場へ出向中）

参加者 公募に応じた20歳代から30歳代の男女  
阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、ワールド・カフェ方式による意見交換を実施しました。  
各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

## 1 開 会

### 【広報県民課長 土屋智則】

皆さんこんばんは。大変お待たせをいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを始めてまいります。私、意見交換までの司会を務めます県庁広報県民課長の土屋智則と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の県政タウンミーティングはここにもございます、「若者とともに進める信州創生」をテーマといたしまして、本県が地方創生の、知事の言葉をお借りしますと、フロントランナーとなると。そういうことを目指しまして、その未来を担う若い世代の皆様と意見交換を進めてまいりたいと思います。

それでは意見交換に先立ちまして、長野県知事、阿部守一からごあいさつを申し上げます。

## 2 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。今日は若い皆さんとの県政タウンミーティングということで、お忙しい中、集まっていただきましてありがとうございます。

今、日本全体で地方創生ということが大きなテーマになっています。地方創生といっても、何となくピンとこない人たちも多いのではないかと思いますけれども、今、日本全体で直面している大きな課題は、日本の社会、今まで右肩上がりで人口が増えていく中で、経済もうまく回って、そして社会も発展してきたと、そういう人口増加基調の中でのモデルが長く続いてきました。

20世紀の100年間で大体、人口がだいたい3倍ぐらいになっていると。これから21世紀の100年間で、また急坂を駆け落ちるように人口が急減して3分の1になっていく、こんなに急激に人口が変化するなんていうのは滅多にある話ではありませんし、先進国でこんな状況になっているところは日本ぐらいです。そういう中で、我々日本は新しい社会のあり方をつくっていかねばいけないうらうと思います。

まずは長野県として幾つか問題意識があります。人口は今、どんどん減っています。一番の要因は、結婚しない若者たちが多い、これは自主的にしない人はもちろんいると思いますけれども、したくでもできない人たちがいます。これは出会いの場がないとか、あるいは安定的に働く場がないので、本当に結婚してしまっているのかなという悩みを相談、私に相談されたこともあります。そういうことで、まず結婚しない人たちが増えている。それからもう一つは、結婚しても生まれる、産む子どもの数が少なくなっていると。長野県の合計特殊出生率は1.54人です。全国平均よりは高いけれども、2.07人にいっていないので、確実にこのペースだと人口は減っていきます。

この人口減少をどう食いとめるか。人口減少なんか放っておいてもいいんじゃないかという

見方とか考え方ももちろんあると思います。ただ、私は、やっぱり急激な、一定程度の緩やかな人口減少でなく、急激な人口減少は社会に非常に大きなマイナスインパクトを与える可能性が強いのではないかと考えていますので、そこは考えていかなければいけないと思います。

それからもう一つは、東京一極集中、日本は非常に中央集権的な、行政レベルでは国、県、市町村、行政三層構造になっていますけれども、分権を進めよう進めようということで、いろいろな動きとか、いろいろな掛け声は出てきて、少しずつ分権の方向になっていますけれども、まだまだ国に多くの権限があると。それだけじゃなくて、首都東京には政治、行政だけではなくて、経済、産業の分野も日本は極めて集中している国であります。

アメリカなんかでは、政治の中心と経済の中心は例えばワシントンとニューヨークみたいに分かれているところが多いですし、あるいはドイツみたいなところは、連邦制、道州制含め、日本で言うところの道州制みたいな形で、州政府の権限が強いということで、日本ほど東京に全部の機能が集まって、いろいろな人たちが何かするにはみんな東京という構造にはなっていない国も多いわけでありまして、今、東京に人口が吸い込まれて、そして東京の出生率が極めて低い。そして、劣悪な生活環境といたら住んでいる人に怒られてしまうかもしれませんけれども、私も住んでいたから敢えていいと思いますけれども、長野県に比べれば大変暮らしにくい部分が多い地域であります。そういう東京一極集中をどう是正していくか。これは日本全体にとっても課題ですし、東京にとっても課題だし、我々地方にとっても課題です。そして何よりも、そうした大きな社会構造が変革する中で、私たちがどう夢と希望を持って暮らせる社会をつかっていくかということが、大きな課題になっています。

私あまり長く話しては、皆さんの話の時間がなくなってしまうので、これくらいにしますが、是非これは言いたい。私はもう54歳ですけども、私の世代はまだ、今までの延長の社会のあり方でも、もしかしたら何とかやり過ごせるかもしれないなという感じは持っています。だけど、多分、20代、30代ぐらいの人たちが、今までと同じ発想とか、今までと同じ社会システムで日本に暮らしてよかったなと本当に思えるかという、いろいろ、多分、変えていかなければいけないところがいっぱいあるのではないかと思います。

是非今日は若い皆さんの視点で、今日のテーマになっています「長野県について今思っていること」、そして、「住みたいと思う地域」。どうすれば多くの人たちが安心して住める、そして、多くの人たちが引き寄せられる地域になるかということを中心にみんなで語り合ってもらいたいと思いますし、そういう中から出てくるいろいろな知見を我々も参考にさせていただいて、これから地方創生の総合戦略をつくっていきますけれども、そういうところにも反映させていきたいと思っています。

皆さんの活発な意見交換、率直な対話を心から期待して、私の冒頭のあいさつといたします。よろしく申し上げます。

#### 【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。では7時45分までをめぐりに、意見交換に入ります。

なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページに公開してまいりますので、あらかじめご承知おきを願いたいと思います。

本日のタウンミーティングはワールド・カフェ方式で、若者らしい積極的な意見交換を目論んでおります。ということで、進行を務めていただきます方も若者をお願いをいたしました。ご紹介を申し上げます。大徳孝幸様です。

### 3 ワールド・カフェ

#### 【大徳孝之氏】

皆さん、こんばんは。私、大徳と申します。現在、私、小布施町役場という長野県の小さな町なんですけれども、その役場職員をやっております。本来、リクルートのじゃらんリサーチセンターという国内旅行の調査研究部門から派遣されておまして、小布施町では、若者との交流事業と、そして定住促進を主に担当しております。ですので、もしかしたらご存知かもしれないんですけれども、小布施若者会議とか、あとはハーバードの学生が小布施町にやってきて、1週間、高校生たちとサマースクールする「HLAB OBUSE」という取組などのお手伝いもさせていただいております。

私はこの2年間ぐらいで数百人の社会人の若者と学生と将来についてとか、移住についてみたいな話をずっとやってきました。なので、今回は全体のカフェホストをさせていただきますので、皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

今回なんですけれども、位置づけとしましては、今回、若者タウンミーティング第1回目となっているんですけれども、これシリーズ化させていきたいと思っています。シリーズ化させていくことで、少しずつ皆さんの意見を集約していきながら、よりよい長野県をつくっていくための道しるべにさせていただければと思っています。

ですので、今回の記念すべき第1回の出てきた皆さんの考えだったり、アイデアというものが反映されていくような形にしていきたいと思っていますので、是非忌憚のない意見を、この中で話し合いをしていただければと思っています。

今回の手法なんですけれども、ワールド・カフェといいます。皆さん、ワールド・カフェ、ご存じの方はいらっしゃいますか。(参加者が挙手) 結構いらっしゃいますね。

ワールド・カフェについて簡単に説明させていただきますと、メンバーを入れ替えながら、各テーブルごとに4名から5名ぐらいの方々と話し合いをしていただきます。これ議論ではありません、話し合いです。ダイアログというんですけれども、議論というのは、どちらかの主張が勝った、負けたみたいな話、どっちが正しいか、正しくないみたいな話になると思うんですけれども、ダイアログというのは、自分の主張に執着せず、固執せずに相手の意見を聞き入れながら、自分の意見と相手の意見の共通項みたいなものを、すごく深く深く洞察していただいて見つけていくというような手法をとります。そして、これを今回、第4ラウンドまでやります。1ラウンドあたり15分、これ4ラウンド繰り返すことによって、この会場に参加されている皆さんが、全員と話し合いができていくような効果を得られるというのがワールド・カフェの特徴です。ですので、今回、この方法を使って皆さんと「長野県について今思うこと」について話をさせていただきたいと思っています。

流れにつきましては、今回は4ラウンド、皆さんにワールド・カフェで、話をさせていただきます。テーブルを変えていただきながらですね。そしてそのワールド・カフェが終わった後は全体セッションの前に、「振り返りシート」を皆さんにお配りしているんです。今回、4ラウンド回った後、5分ほどお時間をご用意しますので、話し合った内容に関して是非振り返っていただいて、記入をしてください。その後、全体セッションとして皆さんの、今日、体験されて感じたことなどを話し合っていたいただきたいと思います。皆さん大丈夫ですか、ありますか、ないという方はいらっしゃいませんか、大丈夫ですか。

そして、今回、ワールド・カフェを行っていただくに当たって、是非気をつけていただきたいことが幾つかあります。ワールド・カフェは雑談ではありません。今回はあくまでもテーマに沿って話しをしていただくということなので、あまり本筋から離れるようなお話しはできるだけ控えていただきたいと思います。

あと、これは全員参加で初めて成立するプログラムですので、是非恥ずかしがらずに自分の意見をどんどん言ってください。そしてそれは必ず否定はしないようにしてください、皆さん、聞かれる方は。そして、時間は限られています。時間は限られていますので、皆さんが意見しやすいように話はできるだけ短く簡潔に、でも何度も話していただいてかまいません。ただ、一回で話を簡潔にさせていただくことで、皆さんが意見しやすい雰囲気は是非つくっていただければなと思っています。

あとは、皆さん、アイデアをつなぎ合わせてください。今回、模造紙を用意しています。これ結構、皆さん、控えめな方とか、自分のそばで小さい字でどんどん書いていく方がいらっしゃるんですけども、思ったことを落書きをするようなぐらいのレベルで、話しながら書いていただいて、絵を描いていただいても大丈夫です。中心から大きな字で書いていただいて、カフェを移動した後に、その皆さんが描いたイラストだったり、字だったりというところから紐付けて、自分のアイデアと結びつけてみてください。そうすると、これまで自分が気づかなかったようなアイデアだったり、ひらめきがもしかすると生まれるかもしれないです。なので、小さくではなくて、次の方が見やすいように、是非中心に大きく書いていってください。

あとは遊び心です。もう本当に楽しむということが一番大事なので、是非楽しんでください。ということが今回のエチケットというふうにさせていただきたい部分になります。

では早速、阿部知事にも席についていただいて。皆さん、次のラウンド、第2ラウンド、第3ラウンドのとき、今回は移動する場所が決まっていますので、そこは間違わないように回っていただいて、全員の皆さんとお話しができるようにしてください。今回、ワールド・カフェをスタートする前に、ちょっと皆さん、もしかして頭が固くなっているのではないかなと。皆さん日々の仕事で大変疲れているのがありますし、ちょっと目が赤い方もいらっしゃったので、ちょっと簡単な頭の体操をしたいと思います。

(ミニゲーム)

### 【大徳孝幸氏】

では、第1ラウンド、まずは自己紹介から始めていただきながら、今回のワールド・カフェ、

「長野県について今思うこと。若者から見た住みたい地域」について、是非いろいろな様々な意見を交わしていただきたいと思います。

では15分ですので、6時35分まで行います。そして35分になりましたら、皆さん、私、ストップとは言いません。静かに手を挙げます。強制的に議論は止めたくないので、なので気づいた方は皆さんスッと手を挙げてください、35分になったら、よろしいですか。

では、ワールド・カフェ、スタートします。どうぞ。

(第1ラウンド開始)

(第1ラウンド終了)

### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございます。よく気づいてくださいました。気づいていただけなかったらどうしようかなと思ったんですけど、すごく皆さん活発に議論、話し合いをしていただいてありがとうございます。

続きましては、皆さんの名札の裏ですね、次に回っていただきたいテーブルの印が書いてありますので、皆さん、一人のホストの方を残して、これから旅に出ていただきます。旅に出ていただきましたら、まずホストの方が自己紹介をしていただきます。そして皆さんの自己紹介をしてください。そして自己紹介の後は、まずホストの方がそのテーブルで行われた話し合いの内容をまず説明してください、皆さんに。その際、細かく説明していただく必要はありません。その会話の中で、特に印象に残ったことだったり、気になったワードみたいな話を主にしていればと思います。そして旅人の皆さんも同じように、自分が、前のテーブルで話してきた内容を同じように説明してください。これも同じく自分の言いたいことではなくて、あくまでもその前のテーブルで話し合われた印象に残った言葉、内容について話をしてください。

では皆さん、旅をまずは始めてください。お別れですね。

着席した段階からまた始めてください。次は6時50分ですね、50分になりましたら、私、また手を挙げますので、どうぞ始めてください。

(第2ラウンド開始)

(第2ラウンド終了)

### 【大徳孝幸氏】

はい、ありがとうございます。

皆さんの旅も後半戦に入ってきました。結構、この話し合い、対話を通してこれまで考えてもなかったような意見だったりとか、アイデアとか、徐々に徐々に蓄積されてきているんじゃないでしょうか。

次も、皆さん、また名札を見ていただいて、確認していただいて、次の旅先を確認していただいたら、また新しいテーブルのほうにまずは移っていただけますでしょうか、お願いします。

では、皆さん、また同じようにホストの方が自己紹介の後、話し合われたことをまたさっきと同じような形で説明してください。そして皆さん、模造紙にいろいろなワードだったり、言葉が入っていると思うので、またさらにそこから紐付けて、自分のアイデアに結びつけていただきたいと思います。

では次は7時7分までになります。では、またダイアログのほうを始めてください、どうぞ。

(第3ラウンド開始)

(第3ラウンド終了)

### 【大徳孝幸氏】

はい、ありがとうございます。何かだんだん皆さん熱中してきて、これまで最初に手を挙げてくださっていたB班が手を挙げない感じになってきましたけれども。

これからいよいよ最後の旅になります。通常、ワールド・カフェというのは、最後のラウンドでは、元いた定位置に戻って、最後のまとめを行うんですけれども、今回はあえてまとめません。それは、皆さんの旅を終わらせるつもりが全くないからです。

今回、是非このもやもやした気持ちというものを持って帰っていただいて、日々の生活の中で、そのもやもやを発散する方法だったりとか、この会議、会議というか、このミーティング、タウンミーティング、1回では終わりませんので、そのもやもやした気持ちがまだ残るようでしたら、2回、3回と是非参加していただきたいですし、さまざまな地域活動にそのエネルギーを使っていたきたいと思っているので、今回は、皆さん定位置には戻りません。

また新たな、今回、旅をしていただきますので、皆さん、名札をまた確認していただいて、次の旅路へと旅立ってください。そしてホスト役の方には、さようなら、また会いましょうと。

では、また同じように、自己紹介のところから始めていただいて、7時28分まで対話を続けてください。

(第4ラウンド開始)

(第4ラウンド終了)

### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございます。皆さん、お疲れさまでした。

では、皆さん、今、頭の中もやもやしていると思うんですけれども、ちょっと休みなく、早速なんですけれども、振り返りシートに、今、皆さんが考えられていること、今日、いろいろな話し合いをして気づいたこと、思ったことを是非、この振り返りシートに記入していただきたいと思います。

そして記入いただいたものに関しては、今後の第2回、第3回の中で、是非意見を集約して反映できればと思っておりますので、是非是非皆さんご記入いただければと思います。

では7時33分まで記入時間を設けますので、皆さん、どうぞよろしくをお願いします。

(振り返りシートを記入)

#### 4 全体セッション

##### 【大徳孝幸氏】

はい、33分になってしまいましたので、まだ書き足りないという方、このタウンミーティングが終わった後に是非追記でご記入いただいて、是非回収させていただければと思っております。皆さん、本当にお疲れさまでした。

最後に一緒にテーブルに当たった皆さんと最後「お疲れさまでした」と。本当にお疲れさまでした。すごくひたすらひたすら、インプット、インプット、インプットだったと思うんですけども、ちょうどいい感じで、皆さん、頭がぐにゃぐにゃになっているんじゃないかと思っています。

続いては、今回、4ラウンドしていただいた上でいろいろなことを皆さん感じたと思われます。その中で、早速、全体セッションとして何人かの方から、是非今日の感想をお聞きできればと思っておりますので、我こそはという方は是非手を挙げて、今日感じたことを是非、何でもいいです、感想は。感じたこと、まだまだ伝えたりないなと思うこと。そして、今日、あ、どうぞ。

##### 【参加者男性A】

皆さんお疲れさまでした。結構、一つのいいアイデアが出ると、すごい話が膨らんで、楽しかったなと思いました。でも、どうしてもやっぱりないものねだり。東京にはこれがあるけど、長野にはこれがないねという志向になっちゃいがちで、もうちょっと頭をぐにゃぐにゃできればなと思いました。

##### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございます。ぐにゃぐにゃですね。どうぞ。

##### 【参加者男性B】

今日の話し合いの感想としては、何しろ、いい意味で、利便性とかでなくて、長野だからできることとかをみんな話し合っ、いろいろなアイデア、自然がきれい、自然を生かしたものだったり、アクティビティだったり、ある意味、地方、田舎というものを生かしたものだったりというのが、いろいろアイデアとして派生していったのがすごく面白かったなと思います。

ちょっとそれとはまた別で、一つ、何か今日聞いていて何か惜しいなと思ったのは、周りに



たくさんスーツの方がいて、何かすごい、案内では楽しく話そうみたいな感じだったけど、実際、来てみると、結構。

是非、次以降は、何しろスーツというか、その圧迫感があるので、場のデザインをしていただければなと思います。すごいおもしろい話し合いです。ありがとうございました。

### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございました。陽気な音楽でもカバーできなかった。すみません。

続いてほかに、何か感想をお持ちの方、いらっしゃいますか。

今日は名札に阿部君と書かれていますので、阿部君とこの会、この時点では言わせていただきますけれども、まだ一緒に会話ができなかった、対話ができなかったという方はこの機会に是非、まだお伝えしたいこととかがあれば、この場で手を挙げてお伝えいただければなと思うんですけども、そうしないと、私、指名してしまいます。

いらっしゃらないですか、いらっしゃらないですか、いらっしゃらないですか。おっと、すみません。

### 【参加者男性C】

私は、大学から大阪に行って、大阪で一旦就職して、昨年10月から長野市内で働いているんですけども、地元は上田で、今も上田から通っています。

そうですね、私、思っているのが、単純に住みやすさで言ったら大阪のほうが住みやすいなと、個人的には思っています。地元に戻ってきたのは、やっぱり地元だからというのがどうしてもあると思うんですね。そういう意味で、だから長野県自体はもっともっと良くしたいと、個人的には非常に強く思っています。

そういう意味で、長野県で何かをしたいと思える、その根底には、でも長野県での生活がすごく安泰です、幸せですという状態がやっぱり一番必要なのかなと個人的に思っていて、そういう意味では、やっぱり交通の便とか、そういうインフラとか、基本的なところがやっぱりしっかりしているのがいかに重要か。で、それを県民がどれだけ意識して享受できているかというのが一番重要なのかなと思っています。

さっき例に出したんですけども、大阪に住んでいる人は大阪の水道水が一番おいしいと思っているんですね。世界一の水道技術と思って、世界一おいしい水を飲んでいると大阪の人、思っているんですけども、実は長野県から行った者からすると、大阪の水道水でつくった味噌汁なんて飲めたものではないんですね。

でもそういう、でも住んでいる人がいかに幸せな根底の生活を送れているかと考えられているかというのも、これ一つ重要なのかなと思いつつ、で、もう一つ、でもどうしても寒いのは運動や、外に出て活動しようという気もなくなってしまうので、せめて、外が寒いのはどうしようもないんですけども、家の中が寒くなくないというような家のつくりにするとか、そういう基本的なところをまず、するというのが、さらに、今後の、何というんですか、県政を変えていくというところ以前に、住民がよりよい長野県にしていこうというところが根底になるのかなと個人的には思っています。ありがとうございました。

### 【大徳孝幸氏】

私、福岡から長野に移ってきたので、1年目の冬はすごく暗い表情になっていました。ありがとうございました。

ほかに、是非この機会に発言されたい方とか、いらっしゃいますか。そうしないと、私、また動きますよ。では、どうぞ。

### 【参加者男性D】

こんばんは。ただいま大学生で、来年度から市の職員になるので、ちょっとこういう場に参加してみようと思って参加したんですけれども。

自分が考えてなかった視点だったりとかがいっぱい出てきて、すごい勉強になったなというものもあったんですけれども。自分が何となくイメージしていたことが、何か同じようなことをちょっと考えていた人の言葉を聞く中で、ああそうだったなと、自分の中で整理できて、何か形になっていくのが、そういった面もあって面白いのかなと思ったので、これからもこういった場に参加して、自分のもやもやを形にしていったり、新しいことを取り入れていったりしたいなと思いました。ありがとうございました。

### 【大徳孝幸氏】

4月から、期待しています。頑張ってください。

では、ちょっと女性からもご意見いただきたいんですけれども、はい、ありがとうございます。

### 【参加者女性A】

私が言いたいこと、感想は、やっぱり今回の場を通して、人が集まれるような場所がある長野にしたいなと改めて思いました。

で、今回、私、30分ぐらい遅刻してしまって、トラブルがあつての遅れて参加だったのですごいショックだったんですけど、今回、このワークショップというか、タウンミーティングに参加できてすごく楽しくて、すごい回復したんですよ。テンションが上がって。

だったので、やっぱりこういう場、そういう異業種の人が集まってお話しできるような場で、かつそういう硬い話し合いじゃないような場というのはやっぱり自分の心理的な、MP（マジックポイント）回復のためにも必要だなと思ったし、やっぱり中野市にもほしいなというふうに思いました。

もう中野でもこういうふうな動きがあるので、まだ長野、今のこういう状態までにはまだまだ遠いかもしれないんですけれども、やっぱり着実につくっていきたいと思いました。

言いたいことに関しては、私、最近気づいたことがあって、まちづくりとか地域活性化とかって、あまりピンとこなかったんですよ。ちょっとそういうのに憧れて、行政に入ったというのもあるんですけど。

何か最近気づいたのが、一緒に遊ぼう、遊ぼう遊ぼうといって始まっていく、これがそれに

近い感覚なんじゃないかなというふうに、私、最近気づいて、もっとこの感覚を大切にしようと思いました。中野でも頑張ります。以上です。

#### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございます。実は彼女は、この間、小布施にも遊びに来てくださって、知らない方ばかりだったんですけども、普通にお酒飲んで、どんちゃん、どんちゃんだったので、ありがとうございます。

では、最後にお一方いらっしゃれば、最後、ピシッと締めていただければなと思うんですけども、ちょっとハードル上げました。挙げていただかないと、最後、僕、締めてしまいます。どうしようかな、いいですか。我こそはという方はいらっしゃらないですか。

こういう時って、皆さん目を合わさないんです。では最後、女性に締めていただければ、お願いします。

#### 【参加者女性B】

私は去年の2月までずっと、18年間近くずっと東京にいて、こっちに帰ってきて、今、ヨガのインストラクターをしているんですけど、東京の良さもすごくわかるんですが、すごくやっぱり、こっちに帰ってきて、すごい長野の良さというのを感じています。

今日、皆さんとお話ししてみて、すごく思いが近い方がたくさんいらっしゃるんだなというふうに感じました。

個人的には、東京の人たちをこっちに移住させたいので、是非、すごい長野の良さというのを伝えていけるように、自分も含めて協力できればと思います。今日はありがとうございました。

#### 【大徳孝幸氏】

ありがとうございました。即戦力の方が長野に来ていただきました。ありがとうございます。

では、以上で全体セッションの場とさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

## 5 講 評

#### 【大徳孝幸氏】

続きましては、最後、講評といたしますか、僭越ながら、私と阿部知事のほうから、最後、講評とさせていただきますと思っておりますので、どうぞ、お席にお戻りいただければと思います。

私、自分で進めて自ら講評ということですね。では、ちょっと着席させていただきます。

皆さん、本当に今日はありがとうございました。皆さんのお話とか、私自身も小布施町に来たのが2年前、2013年4月からで、福岡出身で東京の企業に勤めていて、ある日突然辞令が

くだって、電鉄に乗ってカンカンカンとかいって降りたら山が見えるみたいな。これまで高層ビルで働いていたのに、大丈夫かなと思って入ったんですけども、こういった皆さんのお話とか、自分の経験を振り返りながら思ったことは、今、小布施町役場で仕事をしているんですけども、多分、皆さんも地域のために何かしたいとか、長野県のために何かしたいと思っていらっしゃるって、でも今の自分の仕事がそれにつながっているのかとか、多分、自分のやりたいことと現実みたいなギャップに結構苦しんでいる方もいらっしゃるんじゃないのかなと思うんですけども。

私自身も小布施で仕事をしていく中で、仕事の中で地域づくりとか、地域につながっているなという感覚、もちろんあるんですけども、実はもっともつつながっているなと感じているときというのは、実は土日とかの休日の動き方なんですよね。特にサラリーマンの方というのは、皆さん仕事を持たれている中で、なかなか接点持てないということ、すごくあると思うんですけども、特にこれからの社会とか、これからの地域というのは、オフサイトですね。オフの時間にいかにいろいろな人と係わって、自分の人生を豊かにしていくかということがすごく大事なのかなと思いますし、そうした方が絶対に楽しいのかなと思っていますので、多分こういった場も、今日は皆さんオフ、オフサイトでの活動だと思うんですけども。でも、意外と話してみると共通項があったりとか、すごく距離が短く感じられて、多分、次も会ったりとか、どこかでお会いしたときにもすごく距離が短くなって、打ち解けるのではないかと考えておりますので、このオフサイトの時間というのを大事にさせていただければと思っています。

私も来たときから「大徳ツアー」という、長野を案内するツアーを土日、プライベートでやっていたんですけども、プライベートでやっていたら、噂が噂を呼んで、フェイスブックでメッセージが来るようになったんですよ、知らない人から。「大徳ツアーを申し込みたいんですけど、どうしたらいいんですか」みたいな、ボランティアなのでやっているんですけども。

これオフサイトでなぜやるかということ、案内することで、僕が町民の方と知り合いになれるんですよ。案内することで、僕が歴史を語るんですね。そうすると、自分の中で、蓄積されてくるんです、知識が。それで町民の方も、「大徳君はいつもいろいろな人を連れてきて案内してくれている」と。自分が趣味でやっていたことが、実は仲よく、皆さんと仲よくなるためのきっかけになって、それが小布施の役場で仕事をしたときに、ああこれ町民の皆さんにお願いしないといけないということが、普段から知り合いなので、皆さん協力してくださるんですね。なので、オフサイトの活動が実は仕事にもつながってきたりとか、これって、もうあまり関係ないのかなというふうに思っていますので、是非是非皆さんにも、そうしたオフサイトでの楽しみ方みたいなものを見つけていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

(拍手)

#### 【長野県知事 阿部守一】

大徳さん、ありがとうございました。皆さん、大変お疲れさまでした。

これは、まとめないのがいいとこなの？

せっかくなので、この「振り返りシート」の、この最初の欄にみんなが何を書いただけ、みんな一言ずつ言ってもらいと、大体、どんな話だったかがわかるので、パッと、Aグループからバースと順番に何を書いただけ言ってくれる？

### 【参加者全員が順に発言】

「住宅が暖かい長野県。自分の地元のよさを知っている長野県」

「同世代のつながりが生まれる長野県」

「サードプレイスでさまざまな世代の人が緩くつながれる信州」

「人が集まれる場がある長野」

「人とのつながりがある長野県」

「人とのつながりがある長野県」

「地域の人がつながれるような敷居がある長野県」

「人と人をつなげる長野県」

「人と人がつながる長野県」

「ハブになる人、場所、世代間交流がある長野県」

「よそ者の人と地元の人問わず、多世代交流がある長野県」

「つながる場のある、よく知っている長野県」

「世代を超えたつながりがある長野県」

「つながりが深い長野県」

「住むリスクが少ない長野県」

「つながりがある長野県」

「子育てのしやすい長野県、働く場所がある長野県」

「30代が30代の成人式をやっている長野県」

「つながりがある長野県」

「ゆるやかにつながれる長野県」

### 【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございます。大体、今日の雰囲気はわかったような気がします。私が書いたのは「老若男女が仲よくつながる長野県」と書いたんですけども。

やっぱりいろいろなことが課題として出てきたと思いますけれども、やっぱり最後は人と人とがどううまくつながるかだと私も感じています。

私は、ここのAグループにいたときにちょっと言ったんですけども、東京とか大阪とか、関西、大阪の人の話もあって、非常に人が多くて、一見、出会いが多そうな雰囲気はするんだけど、本当にそうなのかなと、実は私、思っていて。すれ違う人は確かに多いけれども、本当に何か気持ちを通じる人間関係は長野県のほうが格段につくりやすいのではないかと思いますし、あと、さっき誰かがおっしゃっていた、何というか、ポイントとなる人たちがつながりやすいのも、私は長野県かなと思っています。

そういう意味では、ちょっと今日、皆さんからこの「振り返りシート」を後で集めさせてもらうのかな。出てきた皆さんの問題意識を次の長野県の戦略に是非生かしていきたいと思っていますけれども。

やっぱり今日の話の聞いていると、どうやって人と人がつながれる仕組みをつくるか。それから箱物整備とは違った意味でのつながる場をどうつくるかということが一つの大きなテーマかなと感じました。

実はその後、今日の意見交換を振り返って印象に残っていることとか、その上のところも結構、いっぱい書いていますよ。これは、悪いけども、今日は阿部君で参加しましたけれども、こっちはどっちかという県知事として書かせてもらったので申し上げておくと、やっぱり一つは公共交通の充実だなと。車で集まったら酒も飲めないという話もあったので、これはちょっと行政頑張らなきゃなど。

それからもう一つは、楽しい長野県づくり、楽しい長野県づくりへ。今日、小澤征爾さんが私のところに訪ねてきてくれて、「奥志賀のスキー場から直行しました」と言ってスキーウェアで来てくれたんですけども、小澤さんに言われました。「長野県はこんないいところがあるのに、地元の人ほとんど滑っていないと。外国の人たちばかりじゃないのと。地元の人が滑らないじゃ、知事も滑れ滑れ」とか今日言われてしまいました。

是非、身近なところに楽しめる場所がいっぱいあるということをもっと我々意識しなければいけないですし、私は知事として、もっと本当に楽しめる県にしていきたいと思います。

さっき山登りの話もあったんだけど、学校登山は厳し過ぎて、もう二度と行きたくない人を生んでいるのではないかという意見もあったので、やっぱり子どものときは楽しい思い出をつくれるような教育にしなければいけないなと思いました。

それから、仕事の話がやっぱりいろいろなところで出ていましたけれども、やっぱり仕事の間があるかどうかというのは非常に重要です。ただ長野県、結構いい仕事をしている会社があるのに、実はあまり知られていないよねと。航空宇宙産業で、私、去年、シアトルのボーイング社の工場に行ってきましたけれども、ボーイング社と取引しているような企業だって、長野県にはあるわけです。そういうことをもっとやっぱりみんなに知ってもらえるように、知事としてはやらなければいけないなど。

それから最後に私が書いたのは、30代の成人式。やっぱり30代というのは結構、さっきも同じ若者でも、独身の若者と結婚した後の若者と、それから子育て世代になると、同じ年齢とか若者と括っても、ちょっと見方が違うんじゃないのという話もありました。私もそう思いますし、やっぱり30代というのは結構、いろいろな意味で分岐点かなと思うので、30代の人たちが楽しく暮らせる長野県をつくると、多分、もっと若い世代にとってもいいし、もっと上の世代の人たちにも楽しい長野県になるのではないかと思います。

いろいろなこと、私も感じました。ちょっとまだ、皆さんもそうだと思いますけれども、私も頭の中、もやもやしているところが若干ありますけれども、このもやもやを糧にして、県政、しっかり頑張っていきたいと思います。

是非、今日のもやもやを皆さん持ち帰って、それぞれの地域とか、それぞれの職場でまた、次のもやもやを広げて形にしていくように取り組んでもらえればと思います。今日はありがと

うございました。

## 6 閉 会

### 【広報県民課長 土屋智則】

大徳さん、参加の皆さん、どうも今日はありがとうございました。

この若者タウンミーティング、本日を皮切りに来年度まで継続して開催してまいります。本日いただいたご意見を参考に、来年度はさらに掘り下げて意見交換をしたいと思いますので、是非また皆さんご参加をいただきたいと思います。

それでは、これで終了というのではなくて、また次回、お行き会いしましょうということで、終わりにします。長い時間、ありがとうございました。